

第3回日本 OSS 推進フォーラム 総会の開催

オープンソースソフトウェア(OSS)の普及拡大のために自由な立場で議論し、OSSによるオープンなイノベーションの促進に取り組んでいる日本 OSS 推進フォーラムは、正会員・一般会員および有識者からなる特別会員で構成される第3回総会を4月13日にサイオスビルにて開催しました。

IT 利活用による企業競争力強化の中、IT の中心となるソフトウェアは OSS を外しては考えられなくなっており、今後の会員の OSS 利活用を、経済産業省をはじめとする官学や、他団体・コミュニティと連携しながら推進していきます。

具体的には以下の目標を掲げ活動していきます。

● 目標

OSS というソフトウェアパラダイムを会員が活用できるための、以下の情報交換・課題共有を実現し、日本発の OSS を含む OSS 利活用を推進し、会員の競争力強化を図る。

- OSS 利用技術の普及
- OSS 活用事例の研究
- OSS 人材育成のためのセミナー開催

● グローバル活動

会員の下記活動を支援するために、日中韓活動に加え ASEAN の人材育成を切り口に ASEAN 諸国との交流を深めていく。

- 日系企業の海外展開向けシステムインテグレーション活動
- 各国ソフトウェア開発力の活用(オフショアなど)
- 各国プロジェクトへの参画と現地企業とのビジネス交流
- 各国への OSS を含むソフト製品拡販

特に、IT 利活用で課題となる、「モバイル」「クラウド」「ビッグデータ」「ソーシャル技術」の分野を中心に活動。

・ モバイル・ソーシャル技術

IT システムの環境が変化してきており、システムの課題は、コンピュータ中心の課題から、モバイルまで含めたシステム全体でのモバイル・ソーシャル技術活用に変化してきている。

- アプリケーション部会 サーバ上のアプリから IoT・モバイル・ロボット等の組込アプリまでを推進する。

・ クラウド・ビッグデータ

2016 年度は昨年度に引き続き、クラウド基盤部分と上位層のビッグデータ部分で活動範囲が広まり、両者を分割して 2 部会で対応していく。

- **クラウド技術部会** クラウド基盤部分を中心に活動を推進する
- **ビッグデータ部会** ビッグデータ部分を中心に活動を推進する。

2016 年度の部会構成は昨年度に引き続き、「クラウド技術部会」、「ビッグデータ部会」、「アプリケーション部会」の 3 部会体制の活動計画が承認されました。本フォーラムは、我が国の OSS 利用促進と OSS グローバルコミュニティへの貢献に向けて、積極的に取り組んでおり、各 WG では日本国内のみならず中国、韓国と協調する北東アジア OSS 推進フォーラム(昨年は 2015 年 11 月に東京都で開催し、2016 年秋は韓国にて開催予定)において、効率的で実効性のある活動ができるように推進していきます。また、グローバルでの OSS 利用技術について、これまでの活動の中心であった中韓だけでなく、今後のグローバルガバナンスの主要な対象になる ASEAN にシフトしていきます。

※日本 OSS 推進フォーラムは、経済産業省がオブザーバとして参加しています。また、株式会社パンテル・インターナショナルが事務局を務めています。

● 各部会の目標および 2016 年度の活動について

1 クラウド技術部会

クラウド部会は、クラウド環境での OSS 利活用に関する技術やノウハウ、勘所などを中心に、OSS 利用コミュニティへ活動成果をインプットし、OSS の発展への貢献とビジネス領域に還元される良循環を形成します。具体的には、2015 年度で実施した OSS 鳥瞰図作成とクラウド調査に関して、さらに深掘りをする。具体的な活動内容は部会にてディスカッションしながら進めます。また、活動内容の基本は、情報の共有と発信(発信リソース:勉強会、Web マガジン、部会ホームページ)であり、これらを「クラウド」をキーワードに進めます。

2 ビッグデータ部会

ビッグデータ部会は、日本国内の関連する業界・ユーザ企業・コミュニティと連携し、「ビッグデータ」を有効的に活用するための方式を整備し、OSS の発展への貢献および日本国の産業全体へ「ビッグデータ」の活用によるビジネス拡大の良循環の形成を目指します。活動目標は、IoT 時代を見据えた「ビッグデータ」を取り扱う上での OSS を用いたデータ処理基盤の整備、データの標準化、分析手法の整備などの「ビッグデータ」利用促進に貢献できる環境を整備します。

3 アプリケーション部会

アプリケーション部会は、2015 年度までの活動において、OSS アプリケーションを開発し、SaaS ビジネスモデルを検討し、OSS アプリケーションのビジネス事例を集め、対外広報をしてきました。2016 年度は引き続き OSS アプリケーションのビジネス事例収集、参加メンバのスキル強化のための研修会および対外広報活動を実施し、IoT・モバイル・組込み領域の OSS アプリケーションまで広げて、更なる利用拡大を目指します。

以上